

日本学術会議公開シンポジウム

法科大学院時代の 法曹養成・法学研究者養成の 課題と展望

主催：日本学術会議法学委員会
同「学術と法」分科会

2017年7月29日(土)
13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34 (東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口)

【地図】<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>

入場無料
事前申込み不要



法科大学院制度が発足して10年あまりが経ち、その実績と課題をめぐりさまざまな議論が行われていますが、大学の現場の意見を踏まえた議論は意外に少ないように思います。日本学術会議の法学委員会および同「学術と法」分科会では、2017年1月に、全国の大学を対象とする詳細なアンケート調査を実施し、58大学（法学研究科・法務研究科）から回答を得ることができました。このアンケート結果を手がかりに、各界の関係者をお招きし、法科大学院制度と法曹養成、法学研究者養成をめぐる現在の課題と今後の展望について考えます。

開会挨拶 [13:00～13:10]

松本 恒雄（国民生活センター理事長、日本学術会議会員、法学委員会委員長）

I 法曹養成・法学研究者養成アンケートの結果の紹介 [13:10～13:40]

佐藤 岩夫（東京大学、日本学術会議会員、「学術と法」分科会委員長）

II アンケート結果をどう読む：各界関係者からのコメント・問題提起 [13:40～15:10]

① 法科大学院の立場から

磯村 保（早稲田大学法科大学院、法科大学院協会副理事長）

② 法曹団体の立場から

丸島 俊介（弁護士、日弁連事務総長付特別嘱託（法曹養成等担当）、中教審・法科大学院等特別委員会委員）

③ 法曹養成教育の視点から

四宮 啓（弁護士・國學院大学法科大学院、臨床法学教育学会理事長）

④ 地方の視点から

山本 哲生（北海道大学法科大学院長）

⑤ ジェンダーの視点から

後藤 弘子（千葉大学、日本学術会議会員、法学委員会副委員長）

⑥ 法学研究者養成の立場から

糠塚 康江（東北大学、日本学術会議会員）

III パネル・ディスカッション：法曹養成・法学研究者養成のこれからを考える [15:30～16:55]

閉会挨拶 [16:55～17:00]

後藤 弘子

総合司会

吉田 克己（早稲田大学、日本学術会議会員）

山田八千子（中央大学、日本学術会議連携会員）

連絡先：東京大学社会科学研究所 佐藤岩夫研究室
E-mail: cjrp@iss.u-tokyo.ac.jp
（@は半角に直してから送信してください）